

ともに担い ともに築く ^{ひと}女と^{ひと}男の情報誌

ねつとわあく

2016/10/25 Vol.67

「女子力」「男子力」「人間力」



「女子力」「男子力」「人間力」



2009年、「女子力」という言葉がメディアに登場し始めた。「男性の注目を集めるために発揮する女子の力」といった「女性美」や「女性らしさ」を、前面に押し出した女としての性を積極的に生かすコンセプトであった。その後、「女子を積極的に楽しむこと」や「女らしさを高めるための行動力」といった、女性としての生き方も「女子力」として扱われるようになった。

時代は移り、経済事情は変化。家計のために働く女性が増加し、男性と女性の役割分担が曖昧になり、女性が男性の役割をし、男性が女性の役割をすることも珍しくなくなった。その中で、「男子力」も頼もしさや力強さといったそれまでのステレオタイプのイメージから変化した。「草食男子」の流行、「女子力を持った男子」や「ユニセックス」系の男子が巷にあふれている

時は、2016年。リオ五輪でも「多様性」をテーマにLGBT（性的マイノリティ）を表明する参加者が過去最多であった。「ねとわあく」67号では、多様性が求められる今の時代だからこそ、「女子力」「男子力」について考えてみたい。そして、「女」「男」という二つの性の枠組みにとらわれない人としての生き方「人間力」について考える。

時の経過とともに変化しつつある「女子力」「男子力」、そして「人間力」。年齢、職業によって求められる「女子力」「男子力」の違いなど。インタビューや座談会を通し、読者の皆さんと改めて考えてみたい。



座談会

歌をきっかけに考えた、 「女子力」「男子力」「人間力」



「女子力・男子力」ってよく聞くけど、実際どうなんだろう…？
歌を切り口に「私たちの考える女子力・男子力」について、
立場の違う4人に語っていただきました。



■西野カナ「トリセツ」を聴いて

司会 高柳(以降、司会) 今回の「ねつとわあく」の特集は、「女子力」「男子力」「人間力」というテーマです。私たち編集員の中で「女子力」って、やっぱり、西野カナの歌でしょ」ということになりまして、今日は、この歌を切り口に、男女共同参画の視点から、「理想の女子力・男子力」について考えたいと思います。

では早速、この歌を聴いてください。

♪ 西野カナの曲「トリセツ」を聴く ♪

司会 皆さん、どんな感想ですか？

永島 私は、西野カナ自体、普段聴かないのでよく知らないのですが、何だかギャグ的な印象がして。良く言うストリートだけど、ただ思ったことを歌詞にして歌っているだけ、という印象です。

司会 恋愛相手に、この歌詞のような気持ちを感じることはありますか？

小長谷 旅行に連れて行ってくれたら、やっぱりうれしいかも知れません。

中島 受身ですよ。相手に「こうしてほしい」というお願いばかり。あなたは何かをするの？と言いたくなります。

司会 男性としてはどうですか？ 女性からこんな風に言われたら。

西野カナ「トリセツ」(抜粋)

作詞 Kana Nishino

この度はこんな私を選んでくれてどうもありがとう。
ご使用前にこの取扱説明書をよく読んで
ずっと正しく優しく扱ってね。
一点物につき返品交換は受け付けません。
ご了承ください。

(中略)

定期的に褒めると長持ちします。
爪がキレイとか
小さな変化にも気づいてあげましょう。
ちゃんと見ていて。

(中略)

意外と一輪の花にもキュンとします。
何でも無い日の
ちょっとしたプレゼントが効果的です。

センスは大事。
でも短くても下手でも
手紙が一番嬉しいものよ。

(中略)

たまには旅行にも連れてって
記念日にはオシャレなディナーを
柄じゃないと言わず
カッコよくエスコートして
広い心と深い愛で
全部受け止めて
これからもどうぞよろしくね。
こんな私だけ笑って許してね。
ずっと大切にしてくね。
永久保証の私だから。

編集員のつぶやき

男性からすると、やっぱり重くて引きますよね。最近のカップルは、「結婚しても働いてね」という人が多い印象ですが、歌詞は逆ですね。

編集員のつぶやき

1990年代に発表された「部屋とYシャツと私」「関白失脚」は共に、1979年発表の「関白宣言」のアンサーソング（返答）として書かれたものなんです。意識して聴いてみると発見があるかもしれませんね。

編集員のつぶやき

お願いばかりだし、自分をモノみたいに書いている。歌詞の手法かも知れないけど、それでいいの?という感じがしませんか。

松井 こんなにいろいろ「こうしてほしい」と言われると、もう勝手にしてください、と思います。

中島 でもきつと、多くの人の、特に女性の気持ちを代弁してるんですよね。

司会 現実には可能性が低いから、願望を描いた歌として成り立つのかも知れませんね。

中島 若い世代の皆さんの友人で、「これわかる!」という人はいますか?

永島 西野カナが好きな人は本当に好きみたいで、「共感できる」という人はいます。少数だと思うけど..。

小長谷 西野カナが特に好きなのではないけれど、「何となくわかる」という人はいます。どうせ叶わない夢だから、という前提での話だと思います。

中島 そうなんですね。でも私だったら、こんな彼女じゃない、と思っちゃいますね..。

松井 「トリセツ」を聴いて思い出したのが、さだまさしの「関白宣言」と「関白失脚」。俺より早く起きて飯を作れ、というようなことが出てきますけど、先に死なないで、あなたがいないと、というような言葉もある。「こんな異性がいてくれたらいいな」という点では、共通するものがありますね。

小長谷 自分が自立した上で、歌詞の気持ちになるならいいかも知れないけど、待っているだけの姿勢では良くないと思います。

中島 自立した女性像が「トリセツ」からは見えにくいですね。少し前ですが、平松愛理の「部屋とYシャツと私」という歌があって、見かけは男性のステレオタイプに自分を合わせて「理想の奥様像」を見せているけれど、裏では「主導権は私が握っている」という意思が感じられて、しなやかに自分を出していいかな、と思いました。

司会 自立した上で互いに惹かれ合う関係ならいいかも知れませんが、自立できていない関係だと、男女共同参画の理想像からは離れてしまうのかも知れませんね。

ライフステージが進んでも

中島 結婚して子どもが生まれると、本当にくだびれるんですね。特に出産後の数年は本当に精一杯で、自分の服を買いに行く余裕もないくらい。結婚前と比べると本当に悲惨だと思います。見た目が良いとか、よく気がつく人だとか、そういう部分だけ見て結婚したら、途中で結婚生活は崩壊してしまうと思うんですよね。結婚して夫だけ見ていた人が、子どもが生まれて数年は、夫の方を向く余裕がないし、自分に掛けられるお金も時間も無い。そういう状況でも、一生懸命な姿を美しい、その人らしいと解ってくれるパートナーでないと、「こんなはずじゃなかった」と幻滅すると思います。

最近では「イクメン」も増えてきて、気遣ってくれるのはありがたい。でも、妻としてはそれでいいと思っているわけじゃなくて、もともと自分がちゃんとしたい、でもできない、というジレンマがあると思います。女性が「自分がや

座談会参加者

司会 編集員 高柳 溪一



小長谷 眞子さん

大学1年生。国際交流を勉強中。



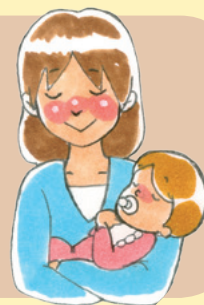
松井 陽介さん

会社員。社内SEとして活躍中。お茶とカレーが好き。



編集員のつぶやき

「女子」とか「男子」という括りをしちゃうと、「女子はかわいくなければ!」という空気になってしまうので、「人間力」と捉えられる世の中の方が良いのかも知れませんね。50歳以上の年代からすると、「女子力」と言われると取り残された気持ちもあります。一方、「男子力」という言葉を使うと、男性にはプレッシャーに聞こえてしまうのでは?という気がします。



りたいようにできていない」ということに苛立っていたり申し訳ないと思っている、ということも夫たる男性に考えてもらいたいですね。

司会 結婚、子育て、とライフステージが進んでも輝いていた、というのが、理想の「女子力」といえるのかも知れませんね。

司会 「女子」、「女子力」という言葉は、すでに世の中に浸透している印象がありますが、「男子」、「男子力」はあまり聞かないと思いませんか?

松井 聞かないですね。そもそも「〇〇女子」は、従来、男性の多かった分野に女性が増えてネーミングされた、という気がします。「女子会」も、それまで男性が多かった「飲み会」に名前をつけた感じですね。それだけ、女性が社会に進出してきたことの表れだとは思いますが。

中島 女性自体、あまりにもライフステージの変化が大きいです。単に「女子力」と一括りにするのは難しいと思いますね。自分の求めるものも、周りから求められるものも変わっていく。長いスパンで見れば「人間力」と言えるんだらうけど、かわいくあつてほしい、と求められる時期もあれば、特に出産以降はそれ以外のことも求められるようになりますよね。

■見た目を磨くだけじゃない

司会 特に学生の方に聞きたいのですが、「もつと女子力がほしい、高めたい」と思うことはありますか?

小長谷 私にとって「女子力」は、割と皮肉

めいた印象を持つてますね。女子力がほしい、という人たちを馬鹿にするわけではないけれど、「トリセツ」からはアイデンティティや人間力が感じられない気がします。

永島 メディアから「女子力を磨こう」と言われて、見た目とかを気にするわけですが、男性はそこまで女性の細部を気にしているのかな?と思います。女子同士でお互いを見て、「女子力高いな」「女子力足りてないな」と言い合っているだけのようになります。

司会 松井さん、どうですか?

松井 確かに、「この人きれいだな」と感じることはあります。でも男性にも「清潔感」は求められているので、それと同じかな、とは思いますが。

司会 女子同士で、相手との優劣やランクを気にする印象がありますね。

中島 「ランク」ってすごくキーワードだと思います。「トリセツ」にしても、人間力とかアイデンティティのない方が逆に女子力が高い、そこに、女子のなかのランク付けがあるような気がします。最近、HKT48の「アインシュタインよりデリアナ・アグロン」でも話題になったと思いますが、「頭はからっぽでいい」みたいな歌詞ありましたよね? いろんな考えがあつていいと思うけど、こういう歌が多くの人に受け入れられるのは悲しいですね。

司会 「女子力」＝外面的なもの「になつてしまっているのかも知れませんが。もつと内面を磨くことが理想なんだろうけど、若い世代だと

編集員のつぶやき

「女子から見る女子力」はまさにそこかもしれません。



医師、二児の母、子育て支援団体の代表として活躍中。



中島 明子さん

大学4年生。国際教養について学んでいる。



永島 かさねさん

編集員のつぶやき



10代、20代の頃と比べて、自分の中にある女子力も変化しているんだなあと感じます。年齢を重ねると、目配りや気配りが自然にできる人が「女子力高い」と言われます。逆に40代で若い頃の感覚や感性でいる人は、いくら外見を磨いても「女子力が高い」とは見てもらえませんね。



特に、見た目を磨くことが大切、という考えにとらわれてしまっている気がしますね。

中島 ここにいる皆さんのようにしっかり考えている人もいて、そういう人たちがその人らしく輝ける社会がいいと思うのに、社会がまだまだ未熟な感じがします。私は仕事でアメリカへ行ったことがあるのですが、向こうの人と話すとき、まず、その人が何を考えているのかが重要で、見た目なんか関係ない。人生に対する考えやビジョンが頻繁に会話に出てくるのですが、今の日本だとそれがないですね。もっと皆さん自分らしく輝いてほしいと思います。

■自分自身の女子力

司会 皆さんのお話を聞いて、理想の女子力とは、内面を高めることだとも言えますね。でも現実には、内面が大切、と感じる機会があまりないのかもしれない。

中島 男性に気に入られるための女子力も、自分が自分らしい生き方をするための女子力もあっていいと思うけど、その目的によって何を高めるのが全然違ってきますよね。女性が働き続けるにはまだまだ困難な点もありますが、仕事の上では女性だからこそその強みもあると思います。自分の強みを生かして、自分らしく生きるためには何を磨いたらいいのかと考えると、もっと生きやすくするのはないでしょうか。社会は「女子力上げろ」と言うのに、いわゆる外面重視の「女子力」を上げたから幸せになれるかと言うと、それは効果があるとしても、「それは結婚までの話。その先は知りません」みたいな社会の無責任さ

を感じます。女性側がもっと賢くなって、「女子力とは何か」を自分で考えて、磨いていかないといけないと思います。

司会 社会の言っている女子力ではなくて、自分自身の中にある女子力が大切、ということですね。

中島 そうですね。社会の言っている女子力だけ上げれば幸せに生きられる社会ならいいかも知れないけど、現実には厳しい。特に女性はまだまだ生きにくいと思います。

司会 男性も、このような社会での生きにくさ、プレッシャーを感じませんか？ 年収の話も聞きますよね。

松井 「強くあれ」と言われるし、婚活しても求めるものの第1位は年収、と言われるよね。ひと昔前は、男性が長時間働いて残業もして稼ぐ、女性は専業主婦、という社会でした。最近は男性の収入も減って、女性も働かざるを得ない社会になってきたけれど、まだまだ社会の調整がうまくいっていない部分があると感じます。

永島 男女の性別に関係ない働き方や、制度面の変化は確かにあったと思いますが、女性はまだまだ働きにくいと聞きますよね。

松井 制度が変わると同時に、人々の意識が変わることも必要ですが、まだまだ時間がかかりそうですね。

中島 上の世代の人たちの意識も追いついていないのかもしれないね。新卒採用の時は男

編集員のつぶやき

働く女性は増えましたね。仕事、家庭、子育て、介護と、女性だけの問題ではありませんが、晩婚化と少子高齢化が進んだことで、子育てと介護を同時に行わなくてはならない「ダブルケア」の問題が表面化しています。





編集員のつぶやき

女子力とメディアなどでいろいろ言われるけど、それぞれの人が自分を磨けるように、良い方向に「女子力」を使っていけばいいのかな、と思います。

女平等かも知れないけど、出産・子育て中の女性が「活躍しろ」と言われても、活躍できる社会になつていないですよ。社会で言われる女子力を保ちつつ、仕事で活躍してください、子育てもしてください。そんなスーパーウーマンなんてどこにいるの？という話です。若い頃にこんな歌を聴いて「うん、分かる」はいけれど、その後の女性の生き方の足かせになつてほしくないですよ。

司会 内面的なところ、自分自身の女子力が、その人の人間的魅力になつていくのかも知れませんね。

中島 女性の方が得意な分野、男性の方が得意な分野というのは確かにあると思います。難題が現れた時も、女性は、ここは大丈夫？と細かく気づいて考えたり、男性はもっと広く捉えて抜本的に解決しようとしたり。ものの捉え方が違う分、うまく力を出し合つて組み合わせることで大きな力になると思います。

■おわりに

司会 自分自身の女子力、という話が出ましたが、最後に皆さん、「自分が考える女子力・男子力」について語っていただけたらと思います。いかがでしょうか？

松井 男性と女性がいれば、それぞれ得意分野があると思います。性別によっても違うと思うし、その人の個性もありますよね。料理や家事の得意な男性もいるだろうし、大工仕事の好きな女性だっている。それぞれが得意分野を生かし、協力し合う関係がいいのでは

ないかと思います。

中島 女子力とは何かを一概に言うのは難しいけど、女性の、男性とは違う特性として感じるの、やはり「女性に変化に強い」と思っています。ライフステージの中で様々な変化がある、でも一生懸命に対応し、しなやかに生きることが出来る。逆に男性は、先を見通したり全体を見る力があつたり。お互いの良さを出し合い、お互いが自分らしく生きられるのが良いと思います。

小長谷 今まで漠然と、男女平等であればいいな、と思つていたけれど、男性と女性が本来に平等な社会になつたとしても、それぞれの人ができること、できないことがやっぱりあると思います。自分や相手が、何ができて何ができないのかを見極め、お互いに支えあつていきたいと思っています。私は中学高校と6年間女子校だったので、まずは大学生の間に、男子と人間として向き合えるようになっていきたいと思っています。

永島 最近、女性は働きながら子どもも産むという選択もできるようになったので、女子・男子と分けるよりは、個人としてどう生きたいのかが大切だと思います。女子・男子と言われても、メディアの中の話、という気もするので、女子だから、男子だから、とあまり気にしないで生きたいと思っています。今日の皆さんの話をきっかけに、世の中の実態や問題点も知つていきたいと思っています。

司会 皆さんありがとうございました。

編集員のつぶやき

女子力・男子力と言われる中で、これが女子、これが男子、と型にはめられて生きづらい部分もあるんじゃないかと思いました。でも、誰も一人では生きていけないし、得意・不得意がそれぞれにあります。それに気づいて認め合い、外見やプレッシャーにとらわれない、幅広い視点を持って成長していくことがいいのではないかと思います。

